

【地元食材を使った地域活性化、道路の整備、災害時に備えての情報、鳥獣被害対策について】

H： 私は安田町の地場産品販売センター「土佐の元気市」と、「味工房じねん」の経営に携わっています。「味工房じねん」は、3年ぐらい前に誘われて、経営に携わるようになりました。自分がしんどくなってきたのは事実ですが、お客さんと話をするとすごく楽しくて、対面販売の良さというところで、地元の人と商品を作りながら、地元の食材を皆さんに食べていただく、知っていただけるよう活動しています。

中山地区の「中山を元気にする会」という会が、山菜ツアーを企画していましたが、今年は鳥獣被害の影響でお休みしました。来年には再開できたらと思っています。

それから、地域をもっと盛り上げたいということで、「旅づくり塾実行委員会」を発足しました。馬路村や北川村などの他地域と連携し、森林鉄道や、自然、温泉等を点ではなく線で結んで、地域のいいところを皆さんに紹介をして、是非東部地区に来てもらおうと取り組んでいます。

ただ、会があるのは夜が多いのですが、国道も県道も町道もガタガタで、原付バイクで走るとバウンドして危ないです。少しずつ改善してきていますが、今後も町、県、国にお願いしたいと思います。

また、個人情報保護ということがありますが、今度の大地震を受けて、一番大事な個人情報というのは、隣の人、近所の人が一番知っておかないといけないのじゃないかなと思いました。やっぱりそういう情報は、町と、多少なりとも若いと思っている私たちが知っておくべきじゃないかなと思っております。

次に、商品開発のことですが、平成21年に「輝ぼーと安田」ができて、独自で大判焼きとかソフトクリーム、生パスタを作っています。平成22年度の商人（あきんど）塾でお世話になり、軍鶏肉（しゃもにく）を使った「シャモむす」というおむすびを、日曜日限定で輝ぼーとに出荷しています。安田町の東島地区には町立の闘鶏場があり、日曜日に闘鶏が行われています。できたら皆さんに来ていただいて、それも観光の一つとして伸ばしていきたいと思っています。

最後に鳥獣被害対策についてですが、3年ぐらい前をお願いしたら、かなり駆除が進んだと聞いていますが、山菜等の商品を守るために、サルやシカの駆除をさらに進めてほしいです。地域でも鳥獣被害対策の補助金を活用して取り組んでいきたいと思っています。

知事： まず鳥獣被害対策のお話をさせていただきます。鳥獣被害対策に関しては、現在対策の抜本強化をしています。2年間、改善をしながら取り組んできたのですが、シカの生息密度が上がって、このままではダメだということで、捕獲頭数目標を1万5千から3万頭まで上げるため、シカを撃つ専門チームを作ったり、予察計画を立てて狩猟期以外でも捕まえられる範囲を拡大したりという対策に今取り組んでいます。これからまた、力を入れて進めていきます。

それから輝ぼ一と、商人塾でPRについて重点的に講義を受けたのではないかと思います。引き続き、商人塾や、アドバイザー事業、最終的には地産外商公社などいろんな仕組みがありますので、是非使っていただければと思います。

次に、個人情報や隣近所の方が災害時も含め知っておくべきだというご意見は、本当にそうだと思います。特に災害時要援護者に対する対応策が、今回の南海地震対策の抜本強化、保健医療福祉の分野の中では大きな課題です。

災害医療救護計画を見直し、さらには災害時要援護者に対する対応策を、今年度再検討していかないといけないと思っています。ポイントは言うまでもありませんが、津波が到達するまでの時間が短い、それにどう対応できるかがまず第一。それから、大災害を受けて、復旧復興のステージにおいて行政機能がダウンしてしまうかもしれない。そのときに、地域のことを知っている方々の力がないと絶対に対応できない。そういうことが今回の東日本大震災で分かったのです。その教訓を踏まえて対応しないといけないと思います。

自主防災組織でも、地域の災害時要援護者を把握しておく取り組みも進めないといけないと思います。今回の被災地での事例も勉強しながら今後に生かしたいと思います。

道のことはもう一生懸命取り組みます。「四国8の字ネットワーク」も頑張っております。国の評価基準を変えさせるという勢いでやっております、随分成功してきていますので、引き続き頑張りたいと思います。県道も町道も一緒に頑張ってやっております。平成23年度のインフラ整備関係の交付金、高知県は県民一人あたり全国3位で、これも国に対して訴えてきた成果だと思っています。

もう1つは、交付金の採択基準を、単に交通量の多さだけで判断するという極めて単純な考え方で、道の本来の機能を捉えきれない。「命の道」的な要素、これをしっかり捉えるべきだという点と、防災機能も加わってきました。国は防災機能としての道というのが非常に印象的だったらしくて、評価基準の見直しに向けてという話も新聞に出ていて、良い方向に向かっていると思いますので、そういうことも含めて対応していきます。